

平成 27 年 9 月 11 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

「GL、インドネシア市場へ事業を拡大」 ～ファイナンス事業子会社プレスリリースより～

当社グループで、東南アジアにおいてファイナンス事業を展開する Group Lease PCL(以下 GL)は、9月8日に、インドネシアへ合弁会社を設立し、インドネシア市場へファイナンス事業を拡大することについてウェブサイト上にリリースいたしましたので、お知らせいたします。

以下 GL ニュースリリースより(訳文)

GL、インドネシアへ合弁会社を設立

2015 年9月8日

SET 上場のオートバイリース会社 Group Lease Public Company Limited(GL)は、インドネシアに新しい会社を設立いたします。東南アジア諸国中で最大の2億5千万人以上の人口を持つインドネシアには、広大で比較的未開拓な消費者金融とリース市場が存在し、今回設立される会社はその市場への「キリの先端」となって事業を拡大するものです。

新会社 PT JTrust Finance Indonesia は Group Lease Holdings Pte. Ltd (GLH(GL のシンガポール子会社)が 65%出資)、J Trust Asia Pte. Ltd(GL の戦略パートナーである J Trust Group が 20%出資)と PT Wijaya Infrastruktur Indonesia(15%出資)の間で出来た合弁会社となります。2015 年9月8日付の SET の開示において同社の資本金は7百万米ドル(約 245 百万バーツ)であることを発表しております。

GL 会長兼最高経営責任者である此下益司氏によると GL は J Trust Group がインドネシア現地で保有している J Trust Bank の 62 店舗を通じて、インドネシア市場に参入し、活動を行う計画です。J Trust は今年 GL が発行している転換社債を 30 百万ドル相当の社債をすでに引き受けています。

新しい合弁会社の登記手続きは現在進行中です。此下氏は、登録手続きは数か月以内に完成させ、今年以内に事業を開始ができるのを期待していると、述べました。

GL のカンボジアにおける事業運営は非常に成功し、今年にはラオスでもファイナンス事業を開始しました。その後、今回インドネシア市場へ参入する意義は、タイに本社を置く GL グループにとって巨大な一歩をしるすこととなります。これは次の5年以内に ASEAN 全域において多面的なファイナンス事業を展開する会社を目指すというコーポレートビジョンに基づく行動となります。

GL は 2015 年6月末の第2四半期に過去最高の利益の 129.47 百万を達成し、前年同期に比べて 1,765%増という、桁外れに大きな躍進となります。この大幅な増益はカンボジア国内の景気回復に伴い不良債権に対する引当金の額が減少したこと、そして、カンボジアでの事業運営に成功したことを受けて利

益貢献が拡大することによるものです。

此下氏はカンボジアの貸付残高(ホンダオートバイとクボタ 農場機構を合わせたポートフォリオ)は年末までに 80~100 百万ドルに達し、6月末における残高 45 百万ドルから2倍に増加すると予想しています。さらに、来年の年末までに、2倍以上に増加し、250 百万ドルまで上昇していると期待されています。比較として、タイの貸付ポートフォリオは、同じ期間で、50 億バーツ(140 百万ドル)から 55 億バーツに上がり、10%増加を見込んでいます。

此下氏は「カンボジアにおける成長の潜在力は極めて強いです。この成長は我々のお客様が 80%を占める非都市部からもたらされます。私達は近年地方にたくさんの道路、建築、住宅を新たに開発されていく様子を目の当たりにしてきました。この開発にともなって購買力のある消費者の新世代が誕生しました」と述べました。

「また、都会及び都市のエリアに焦点を置く GL の競合他社に開拓されていない莫大な市場があることを、これらの新しい田舎の消費者は示しています。この結果、GL のカンボジアの全額出資子会社である GL Finance (GLF) は約 95%市場シェアを持つ支配的なリーダーとして知られています。そして、最も重要な点は、これらの非都市部市場が現在の世界的な金融不安定さから比較的隔絶されていることです」、とも加えました。

顧客信用評価の業務時間を大幅に短縮するために信用評価システムとして E-Finance を使用することで GL はカンボジアで成功モデルを作り上げました。このビジネスモデルをラオスに応用し、今後合弁会社が開設完了した暁には、インドネシアにおいても同じシステムを導入する予定です。

「インドネシア市場への参入は、売上高と収益性の面で新たな高みに GL を上昇させる新しい章を刻むという確信していると此下氏は語ります。「カンボジアの場合と同様に、数年前に、インドネシアに市場がありませんでした。しかし、急速な経済発展のおかげで、新たな購買力を持つ消費者の新しい世代が成長しています。そして、はるかに人口が多いため、インドネシアの市場は、カンボジアより 10 倍も大きいのです」と、此下氏は語りました。

此下氏は、「タイは GL の基盤であり続ける一方で、ASEAN 地域での海外事業は、グループ全体の売上と利益に大きな貢献をします。例えば、カンボジアからの利益はタイと比べて、この四半期と一致し、第4四半期以降にタイを上回ると考えています」と述べました。

此下氏によると、インドネシアの新合弁会社は、J トラストグループが所有する地元インドネシアの銀行である J トラスト銀行の 62 支店のネットワークを介して、オートバイ、農業機械、太陽電池パネルや電気製品を対象とするリース事業を一気にスタートする予定です。「それに平行して、地元インドネシアの金融会社の買収に成功したときには、合弁会社は持株会社の機能を果たすことにもなります」と彼は付け加えました。

原文については、以下 URL をご参照ください。

http://gl.listedcompany.com/news.html/id/486986/group/newsroom_press

以上